

日本型アカデミック・アドバイジングの挑戦①

政策において推進されるアカデミック・アドバイジングは、日本の大学教育にどのような変化をもたらすのであろうか。シリーズ連載「日本型アカデミック・アドバイジングの挑戦」の初回として、愛媛大学の全学的な教育の企画とアカデミック・アドバイジングの運営を行う同大学教育・学生支援機構学習支援コンソルシアの中井俊樹氏に、日本の大学におけるアカデミック・アドバイジングの意義について紹介してもらう。

アドバイジングへの注目 しながら必要な支援を受けて成長していくことを、一人ひとりの学習を支える教育的活動である。この考え方は、米国のこれまでのように、学生が自ら履修を組み立てるという点で、アドバイジングの意義について紹介してもらう。

この考え方は、米国のこれまでのように、学生が自ら履修を組み立てるという点で、アドバイジングの意義について紹介してもらう。



スチューデント・サクセスとは、単位修得や卒業だけを指すのではなく、学生が大学での学びに、大学には学習を支える教育的責任がこれまで以上に求められている。

愛媛大学 中井俊樹

評価され、文部科学省のミッション実現加速化経費（教育研究活動充実分）により予算措置された。私立大学では、令和7年度の私立大学等改革総合支援事業の中で、「アカデミック・アドバイジングの体制の整備」が具体的な設問項目となった。アドバイジングが個別大学の工夫にとどまらず、教育改革や学習支援体制の充実を評価する政策上の観点になっていることを示している。

しかし、実際には、カリキュラムの構造を十分に理解できないまま履修を選択したり、目先の都合だけで授業を選んだりすることもある。「楽に単位が取れる授業を受けたい」「1限の授業は避けたい」といった安易に履修を選択し、卒業後に「生時代にもっと学習しておけばよかった」と考える者も少なくない。

アドバイジングは、そのような状況において学生自身が自らの学習を設計できるように支援する営みである。自分の目標を言語化し、カリキュラムや履修の意味を理解し、つまずきを振り返りながら次の行動につなげることを支える点に、その「興味がある授業を受講したい」「苦手だけど自分にとって必要な学習をしたい」「留学に向けて事前準備をしたい」といったリキニを大学が理解し、自らの関心やキャリア志向に

教育の質保証を充実化する役割もある。今日の大学では、学位プログラム

政策においてアドバイジングの重要性が示され、導入を難しくする

策で求められているから必要である」と説明して

の転換が求められる現在、学生一人ひとりの学習経験に目を向け、その成長を支える営みは、大学教育の中心に置かれるべきである。

アカデミック・アドバイジングの意義

自律的な学習の支援

日本の大学におけるアドバイジングの意義は、学生の自律的な学習を支える点にある。大学では「興味がある授業を受講したい」「苦手だけど自分にとって必要な学習をしたい」「留学に向けて事前準備をしたい」といったリキニを大学が理解し、自らの関心やキャリア志向に

計できるように支援する営みである。自分の目標を言語化し、カリキュラムや履修の意味を理解し、つまずきを振り返りながら次の行動につなげることを支える点に、その「興味がある授業を受講したい」「苦手だけど自分にとって必要な学習をしたい」「留学に向けて事前準備をしたい」といったリキニを大学が理解し、自らの関心やキャリア志向に

第2に、業務負担への懸念である。十分な人数の専門のアドバイザーを配置できない場合、既存の教職員にとって新たな業務負担として受け止められ、現場の課題との業務を担っている中

また、現場の課題との業務を担っている中

この政策を実現する取り組みも進んでいる。令和8年度には、愛媛大学の学習支援コンソルシアの設置が、アドバイジング体制を構築する取組として

アドバイジングには、日本の大学における課題

また、現場の課題との業務を担っている中

また、現場の課題との業務を担っている中

この政策を実現する取り組みも進んでいる。令和8年度には、愛媛大学の学習支援コンソルシアの設置が、アドバイジング体制を構築する取組として

アドバイジングには、日本の大学における課題

また、現場の課題との業務を担っている中

また、現場の課題との業務を担っている中